

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	615-1 観光振興事業(イベント等の開催)	会計	01	一般会計
		款	07	商工費
		項	01	商工費
基本	44 資源ともてなしの心を活かし、観光を振興する	目	03	観光費
		細目	336	観光振興経費
行革大綱の重点事項番号		細々目	01	観光振興経費
担当部署	コード 191400 名称 産業建設部商工労働観光課	担当者氏名	川部 千佳	連絡先 43 (内線) 2309

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	市内、市外及び県外の観光客	※対象件数
成果(どうする)	伊賀市の観光素材をイベント化しPRすることで、メディア等の注目が集まり、新規観光客の誘客につながる。また、イベントの充実でリピーターが増大する。	
根拠法令・要綱等		
開始年度	平成	年度 関連事業
終了年度	平成	年度
H22 事業内容	○伊賀上野NINJAフェスタ実行委員会(市内の18団体で構成、事務局は商工観光課)にNINJAフェスタの実施に係る経費の一部を負担した。また、誘客促進事業として観光キャンペーン事業を委託した。 ※平成22年4月1日から平成22年5月5日まで開催。忍者衣装変身処8ヶ所(街中の変身処も含む)、忍者道場7ヶ所開設、その他多数の日替わり、協賛イベントを開催 ※平成23年2月5日～6日においてNINJAフェスタの事前PRとして「NINJAフェスタinお台場」を開催。 ○上野城新能実施委員会に、新能の実施に係る経費の一部を負担した。 ※平成22年9月25日に新能開催	
社会情勢の変化等	各メディアに数多く取り上げられ、フェスタ及び伊賀市の存在を全国的に情報発信することができた。しかしながら、厳しい社会情勢に東北震災による自粛ムードが追い討ちをかけた入込客数は厳しい状況となっている。また、今後の誘客の切り札となるインバウンド(外国人誘客)も震災の影響で先行きが不透明な状況である。更なる新規観光客の誘客を図るため、平成23年度において伊賀上野城築城400周年記念事業を実施。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)	
1 建設用地	
2 建設面積(延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)	
1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H21	H22	H23	H24
各種媒体によるPR件数		件	目標 60	目標 60	100	100
			実績 96	実績 127		
NINJAフェスタ実行委員会・部会会議開催数		回	目標 7	目標 7	7	7
			実績 9	実績 8		

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H21	H22	H23	H24
忍者衣装変身者数			人	目標 7500	目標 7500	8000	8000
				実績 7735	実績 8365		
薪能来場者数			人	目標 700	目標 800	1000	1000
				実績 1300	実績 1300		

投入コスト	直接事業費計(A)	H21 決算	H22 決算	H23 当初予算	H24 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
Aの財源内訳	国庫支出金	2,655	5,655	10,155	5,655
	県支出金	1,000		3,100	
	地方債				
	その他	0		310	
	一般財源	1,655	5,655	6,745	5,655
事業投入人件費(B)		2.0人 14,400	2.0人 14,400	2.0人 14,400	2.0人 14,400
フルコスト(A)+(B)		17,055	20,055	24,555	20,055

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	○
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	○
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市民全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	○
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	○
有効性	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業	
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	
	観光振興を積極的に取組むことにより集客交流が促進され、それに伴い経済活動や地域の活性化が見込まれるため、伊賀市が観光都市として進むことへの市民ニーズは高い。	○
	財政状況を考慮し、事業を休止した場合は、市民生活への影響が大きい事業	
	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	
	地場産業や地域経済が疲弊している状況においては、観光産業は成長性の高い産業であり、また波及効果の裾野が広い産業であるため従来にもまして重要な役割を担い、経済活性化への切り札になりうるものと考えられ、市民生活にプラスの影響を与えることができる。	○
	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い。	○
	サービス水準や対象を見直す余地がある。	
	当初設定した計画を 100% 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】	
効率性	予算の繰越の有無	無
	【予算の繰越がある場合、繰越の種類】	
	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
	【事業名】	
	受益者負担を求めることができる事業である。	○
	全体コストにおける負担構成は適正である。	○
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況	
改善策	来年度の事業開催までに実行委員会において課題の洗い出しと解決に向けた検討を行う。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 NINJAフェスタの各道場の運営や個々のイベントについては地域住民や各団体で自主的な運営を行うことができた。また、それを支える市民ボランティアの数も増えてきている。忍者衣装の貸出し業務については、H22年度は緊急雇用対策事業を活用し、貸出し体制を充実させるとともに、伊賀上野観光協会の自主事業として貸出し業務の拡大を図ることができた。新能の実施については、経費負担の少ない演者に経費の節減に努めた。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	松本 浩典
事業の方向性	【方向性】 現状維持 【理由】 伊賀市の観光振興を図るとともに、市民参加と市街地の活性化に寄与するため、さらに市民が積極的に関わり、観光客との集客交流が促進されるよう、イベント内容の充実を図る。また、忍者ゆかりの地との連携を強化し、広域的な観光振興を図る。
現時点における課題、その他	イベント運営体制の強化および観光客の受け入れ体制(おもてなし・駐車場・安全対策)の構築
課題、その他に対する改善策	来年度の事業開催までに実行委員会において課題の洗い出しと解決に向けた検討を行う。
(いつまでに、何を、どうする)	